



地域を結ぶ夏祭り

エプロン通信員 新里 律子

日中、うだるような暑さが続く沖縄の夏。強烈な日が沈むと、25度を超える熱帯夜でも少しばかり涼しく感じるのは私だけでしょうか。

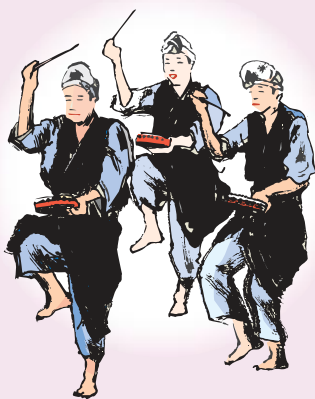
そんな暑い夏の日、普天間第二小学校ではPTAを中心に自治会・PTA合同で毎年8月に夏祭りが行われます。2学年合同で、クラブ活動の保護者で、さらに校区内の中学校の部活などで、さまざまな形で出店があります。また、各地区青年会のエイサー、婦人会や老人会の踊りなど多彩な催し物があり、実ににぎやかです。

この夏祭りは今年で23回目を迎えるそうです。この祭りの発端は、普天間第二小学校区の普天間三区、喜友名区、新城区の3つの地区がそれぞれで盆踊りなどの行事を開催していたのですが、三地域を知り連携を深めようということから始まったということです。

宜野湾市に引っ越ししてきたばかりの頃は、仕事の繋がりで知り合った人にしか、子育ての相談ができませんでした。子どもが就学すると、学校を通して地域活動に加わるようになりました。長女の時は、親の私たちが初めてのことが多く何をすることも右往左往。そんな時、クラスメートの先輩保護者から色々な情報を得ることができ、不安が安堵に変わっていったのを思い出します。

子どもが友人関係で悩んだときには、親もどうしていいのかわかりませんでした。そんなとき部活の保護者の方に話を聞いてもらい、どれほど気持ちが悪くなったことか、今でも感謝しています。PTAの活動で知り合った保護者の繋がりは、子ども達の繋がりにも広がりました。

夏祭りの企画・運営するのは大変です。リーダーシップの取れる人、メンバーとして支える者など人それぞれタイプがあり、その役割をきちんとこなすことで祭りは成功すると思うのです。祭りで生まれるコミュニケーションやネットワーク。子ども達は、夏祭りの手伝いを通してクラスメートの保護者から見守ってもらえる安心感を肌で感じると思います。子育て世代の皆さん、地域の活動に参加してみませんか？ 安心感がきっと生まれると思いますよ。



川のある風景 宜野湾にも滝があった！

茶

くわーゆんだく

76



夏休みに入り、北部の川や滝などは行楽客で賑わいます。市内にもこのような遊び場となる川や滝があったことをご存知でしょうか。

19区公民館の隣にあるまつぼっくり公園の広場は、戦前は愛知の闘牛場でした。闘牛場であった広場と公民館の間には小川が流れ、公民館西側の崖から水が流れ落ちる場所が滝になっていました。そこは「ウトウシ」や「ミンバカの滝」と呼ばれ、高さは7mほどありました。大雨が降ると水量が増え、滝の音は愛知と神山の境界付近にまで聞こえたといえます。滝壺は深くなっていて、子ども達が泳いで遊んでいました。また、小川では蟹や鮎、鰻などを獲ったり、洗濯をする人もいました。戦後の食料不足の頃は、この小川から水を引いて、現在のマルキヨビルの駐車場辺りに水田をつくって使っていました。この小川は今は蓋がされて道路となっていますが、滝であった部分には蓋がなく、傾斜のある水路となり滝の跡を残しています。他に、普天間川にも小さな滝があり、滝壺は赤道や上原などの子ども達の泳ぐ場所でした。かつての宜野湾では、川は遊び場であり生活の場でした。しかし、都市化による河川整備などもあり、私達の生活は川から離れてしまい、近年では川で遊ぶ子どもの姿を見かけなくなりました。宜野湾にもかつて存在した、川が身近にあった風景を、覚えておきたいものです。(文責 金城 良三)



▲滝のあった崖の遠景 (愛知・まつぼっくり公園)

たり、洗濯をする人もいました。戦後の食料不足の頃は、この小川から水を引いて、現在のマルキ



▲滝の跡の水路(同)

「宜野湾市史」へのお問い合わせ
教育委員会文化課 ☎8933-4430